

三稜会懸賞論文 稻葉真弓賞特集

三稜会会報別冊



平成28年8月1日 第65号別冊
発行 三稜会
(津島高校同窓会)
事務局(津島高校内)
〒496-0853
津島市宮川町3-80
電話 0567-28-4158
発行人 横井 義一



昨年開設した「稻葉真弓さん 文学の軌跡」の展示品が
本年春、愛西市新庁舎竣工を祝い、出張展示が行われました。

この秋は名古屋市内で展示会。
(3ページを参照ください。)

第6回 稲葉真弓賞 審査結果発表

テーマ 『言葉』

応募総数 538点

津島北高等学校	123点	五条高等学校	24点	稻沢東高等学校	2点
海翔高等学校	7点	津島東高等学校	11点	美和高等学校	1点
清林館高等学校	3点	杏和高等学校	6点	津島高等学校	361点

入賞作 5名 最優秀賞、優秀賞、佳作はP3～P8に掲載。
総評、選評はP8に掲載。

〈最優秀賞〉 1点	津島東高等学校	2年	澤田 悠輔さん
〈優秀賞〉 1点	津島東高等学校	2年	水野 裕貴さん
〈佳作〉 3点	五条高等学校	2年	杉山菜々子さん
	五条高等学校	1年	小原 一馬さん
	清林館高等学校	1年	加藤 三奈さん



(表記学年は応募当時のもの)

表彰式 平成28年9月25日(日)午前10時30分～ 津島高校三稜館(体育館)

入賞された皆さん、おめでとうございます。また、ご応募いただいた皆さん、ありがとうございました。

第1回からの最優秀賞と優秀賞作品は、三稜会ホームページに掲載しております。

三稜会ホームページ <http://www.sanryokai.com>

【協賛団体】(株)ヨシヅヤ
虎ノ門法律経済事務所
(株)日本一ソフトウェア

クローバーTV エフエムななみ・77.3MHz
(株)三和スクリーン銘板 (株)原ネームプレート製作所
(株)朝本組 協和交易(株)

【後援】(株)中日新聞社

(新規協賛団体を募ります。)

三稜会懸賞論文 稲葉真弓賞の歩み

愛知県立津島高等学校同窓会（三稜会）は、母校の創立110周年記念事業として、2010年に西尾張地区のすべての公私立高校生を募集対象とした懸賞論文制度を設立致しました。

著名な作家、詩人として大活躍中であられた稻葉真弓さんに審査委員長を務めて頂き、寄せられる、たくさんの素晴らしい作品が、第4回より稻葉真弓賞へと発展させてくれました。各校の継続的な参加を期待致します。

以下は、過去6年の歩みです。

(第6回までの入賞者数)

校名	参 加						最優秀賞	特別賞	優秀賞	佳作
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回				
① 稲沢	○		○	○	○				1名	1名
② 佐屋	○						第1回			
③ 津島	○	○	○	○	○	○	第2回 ・4回	第4回	7名	37名
④ 美和	○		○		○	○				2名
⑤ 弥富	○	(現・愛知黎明高校)								1名
⑥ 佐織工業			○							1名
⑦ 清林館			○		○	○	第3回 ・5回			3名
⑧ 津島東			○		○	○	第6回		3名	1名
⑨ 稲沢東					○	○				
⑩ 海翔					○	○				
⑪ 津島北				○	○	○			1名	
⑫ 杏和						○				
⑬ 五条						○				2名
⑭ 愛知啓成										
合計	5	1	6	3	8	9校	6名	1名	12名	48名

(参加時期別五十音順)

※過去の課題と応募数

第1回 2010年度 「夢」 124作	第2回 2011年度 「いのち」 341作
第3回 2012年度 「家族」 389作	第4回 2013年度 「友情」 325作
第5回 2014年度 「時間」 614作	第6回 2015年度 「言葉」 538作

- ・毎年10月にテーマと募集要項を各高校に掲示し、翌年1月末に締切ます。
- ・最優秀賞、優秀賞と佳作作品の一部を三稜会のホームページにて公開しています。
- ・入賞者本人の朗読を、クローバーTVとFM77.3にて放送します。(7月下旬頃)
- ・入賞者を毎年9月開催の三稜会総会にて表彰致します。

稻葉真弓さんご逝去

2014年(平成26年)8月30日

津島高校・興學館内に、稻葉さんの遺品展示コーナー

『高20回生・稻葉真弓さん 文学の軌跡』を、2015年9月27日に開設

『稻葉真弓展』－名古屋市内で開催－

三稟会会長 横井義一

7月8日の夕方、津島高校の教頭先生から“名古屋市東区にある「文化のみち二葉館」から、稻葉さんの遺品展示会をしたい旨の依頼が来ましたがどうしましょう”と、お電話がありました。私は即座に、「全面的に協力しましょう」と答えました。

昨年春、稻葉真弓さんコーナー開設の参考にさせていただきたい目的で、二葉館で開催中の城山三郎展を見に行きました。通りかかられた係員に、稻葉さんコーナー設立の準備中であることを紹介し、「この場での出張展示を考えていただけてはいかが・・・」と話した記憶がよみがえりました。

ここは、日本最初の女優と言われる川上貞奴の旧邸宅です。**ふたばのように文化の道が成長していく期待が込められてつけられた会場名**です。西尾張を超えて、名古屋市内の由緒ある会場での展示が実現し、歓びに堪えません。

どんな邸宅で、どんな展示になるかお楽しみに、ぜひ足をお運びください。

何気なくかけた「言葉」が、一年たって芽を出しました。懸賞論文の昨年のテーマにぴったりの展開に、陰で稻葉さんが、喜んでお働きくださっている気が致します。

期 間 平成28年10月13日(木)～11月17日(木)

会 場 文化のみち二葉館(月曜休館) 電話 052-936-3836

場 所 名古屋市東区樟木町3-23 『白壁』バス停近く

トークイベント開催 中部ペンクラブ会長 三田村 博史 氏(予定)

10月23日(日)(予定) 13:30～15:00 「稻葉さんの創作について、背景やエピソードなど。」

●最優秀賞●
「言葉」を持つ、ということ

津島東高等学校
2年 澤田 悠輔

友達はどうやって作ればいいのだろう。幼い頃から現在までずっと考え続けてきた。

今、僕にはクラスに二人程度、気軽に話すことが出来る友人がいる。これが多いか、それとも少ないかを判断するのは個人の価値観によるだろうが、僕にとっては十分な数だ。中学二、三年の頃の僕に、友達と呼べる人は一人もいなかつたのだから。僕は、人と人が知り合いになる時、必ずそこには『言葉』が介在しているのだと思う。例えば、初対面の人と友達になる時、まず『言葉』で挨拶をする。次に『言葉』に自分の情報を乗せ交換し合う。そして話をしていく中で相手と自分との共通項となりそうなところを探し、見つけたらそれを『言葉』に落とし込み、お互いの接点となるキワードにする。キワードを起点にして話を盛り上げていき、届託なく笑い合うまでに打ち解けることが出来たのならば、もうその人とはほとんど友達だと言つていい。一旦別れても、後日また別の話題を探す。こうして相手と関わるための手段であるはずの『言

第6回 稲葉真弓賞受賞作品

く。お互に自分の存在を分かち合いで、相手と自分が一体化していくような感覚がそこにはあるのだろう。つまり『言葉』とは人ととの掛け橋であり、相手との距離を近づけるための重要な道具である。『言葉』さえ使いうことが出来れば、相手との繋がりが断たれる事はない。逆に言えば、『言葉』を上手く使うことが出来なければ、人の関わりを保つていらることは難しい。

僕は『言葉』を上手く使うことの出来ない人間だった。

クラスメイトに話しかけられた時、どんな対応をすればいいのか全く分からなかつた。他愛のない話、些細な世間話であつても、僕は妙にのぼせ上がり、呂律が回らなくなつた。舌だけが焦り始め、何だか分からぬ発音をし始めた。僕がもごもごと口を動かしていながら、途中で話を切り上げ離れて行く。そんな相手の反応に対して、僕は居た堪れない気持ちで目を伏せるだけだった。こんなことが繰り返されて、僕は知性に欠ける人間だとクラスメイトから判断されるようになつていつた。

僕は発音障害や、何か知能に関わる病気を抱えている訳ではなかつた。話し下手、というだけのことである。しかし、それは僕にとって非常に重要な問題だった。『言葉』を上手く使うことの出来ない僕は、一体どうやって友達を作ればいいというのか。本来、他者と関わるための手段であるはずの『言

葉』が、僕と他者との距離を隔ててしまつては、それをどうやつたら縮めることができるというのか。『言葉』は不自由な人間に對しては、こうも冷酷な壁に変貌するものなのか。だとしたら、『言葉』とは余りにも不自由な物ではないか。僕は、『言葉』に絶望を覚えた。それから僕は、他者と関わることを自分から避けるようになつていった。

自分が『言葉』に絶望を覚えた。『言葉』に不自由な人間には、それが一番傷付くことよりも、孤独を選んだ。『言葉』に不自由な人間には、それが一番賢明な生き方なのだ。そう思うようになつた。

中学二年生の夏、僕はもう一人の『言葉』に不自由な人間に出会つた。それは同じクラスに在籍する、オウェンと言ふ少年だつた。彼はフィリピン生まれの、背の高い黒人だつた。父親の仕事の都合で、日本に渡つてきたらしい。彼の日本語はあまり堪能とは言えない、たどたどしいものだつた。当然、僕が積極的に彼と接触できる訳がなく、ましてや英語など話せるはずもなかつた。だから、僕とは接点の無い人間だと率直に感じた。特に関わることも無いだらうと思つていた。

七月上旬の頃だつた。教室で僕は突然、オウェンに話しかけられた。僕は正直当惑しながらも、彼のたどたどしい日本語を聴きとつた。どうやら、僕の好きな歌手について話しているようだつた。僕は以前、クラスの前で自分の好きな歌手について発表したことがあつた。今は亡き黒人のスター歌手マイケル・ジャクソンである。話しかけられるまで知らなかつたのだが、彼も僕と同じくマイケルの大ファンだつた

らしく、それが僕に話しかけるきっかけになつたようだつた。同じ歌手のファンということを知つて、僕は嬉しかつた。でも、持ち前の話し下手を發揮してしまふのが怖かつた僕は、楽しそうに話す彼に終始愛想笑いを浮かべて、自分から会話をしようとはしなかつた。

僕がオウェンと再び会つて話をしたのは、夏休みの公民館でのことだつた。僕の様子を見て取つた彼は、笑顔で僕の肩を叩き、去つて行つた。僕はそこに本を借りるために来つたが、彼は日本語を習うためだつた。図書室にて、彼は僕の姿を見るとすぐ嬉しそうな表情を浮かべ、一緒のテーブルに座ることを、少し上達した日本語で僕に要求した。ここで断つてしまつては、彼を傷つけてしまうだらうと僕は思い、大人しく彼の隣の席に腰かけた。最初に話したのはマイケル・ジャクソンのことだつたと思う。そこから、彼の生い立ち、趣味、家族、学校、故郷の友人について、様々なことを語つた。彼はそれらのことを全て日本語で伝えてくれた。英語は一言も使わなかつた。どうしても英語でしか意味を考えられない場合、例えば『太陽』を伝えたい時、彼は円の周りに直線が生えた絵を描いた。太陽のこと、と僕が言うと彼はタイヨウ、と復唱した。僕は気を遣つて、極力英語を使つて話をうとしたのだが、その都度彼は苦笑を浮かべながら日本語で回答をした。

いつのまにか、僕は彼と話しているうちに自分が話し下手であることを忘れていた。ほとんどつまるところなく、会話を熱中している自分がいた。『言葉』

を覚え始めたばかりの幼児のように、けになつたようだつた。同じ歌手のファンということを知つて、僕は嬉しかつた。でも、持ち前の話し下手を發揮してしまふのが怖かつた僕は、楽しもうに話す彼に終始愛想笑いを浮かべて、自分から会話をしようとはしなかつた。

僕がオウェンと再び会つて話をしたのは、夏休みの公民館でのことだつた。僕の様子を見て取つた彼は、笑顔で僕の肩を叩き、去つて行つた。僕はそこに本を借りるために来つたが、彼は日本語を習うためだつた。図書室にて、彼は僕の姿を見るとすぐ嬉しそうな表情を浮かべ、一緒のテーブルに座ることを、少し上達した日本語で僕に要求した。ここで断つてしまつては、彼を傷つけてしまうだらうと僕は思い、大人しく彼の隣の席に腰かけた。最初に話したのはマイケル・ジャクソンのことだつたと思う。そこから、彼の生い立ち、趣味、家族、学校、故郷の友人について、様々なことを語つた。彼はそれらのことを全て日本語で伝えてくれた。英語は一言も使わなかつた。どうしても英語でしか意味を考えられない場合、例えば『太陽』を伝えたい時、彼は円の周りに直線が生えた絵を描いた。太陽のこと、と僕が言うと彼はタイヨウ、と復唱した。僕は気を遣つて、極力英語を使つて話をうとしたのだが、その都度彼は苦笑を浮かべながら日本語で回答をした。

いつのまにか、僕は彼と話しているうちに自分が話し下手であることを忘れていた。ほとんどつまるところなく、会話を熱中している自分がいた。『言葉』

●優秀賞● 魔法の言葉

愛知県立津島東高等学校
二年 水野 裕貴

私たち日本人は、様々な場面で「すみません」という言葉を使う。間違ひを犯して謝罪するときや、落とし物を拾つてもらつて感謝するとき、また、道を尋ねるときにも「すみません」と言う。ところが、外国人から見ると、この「すみません」を多用する日本人は異様に見えるそうだ。なぜ日本人は多くの場面で「すみま

せん」という言葉を使うのか。それは、日本人特有の考え方によるものである。日本では、競争に打ち勝つよう努力する人物よりも、争いを生まないよう努力する人間のほうが尊敬される傾向がある。円滑な人間関係を築くには、「すみません」と言うことが大切なことがある。例えば、歩道を歩いているときに目の前に人がいて通ることができなかつた場合、ただ単に「どうにください」と自らの要望を伝えるだけでは、相手は気分を損ねてしまう可能性がある。そこで、たとえ自らが過ちを犯していなくとも、「すみません」という言葉を文の始めに置くことによつて、相

手く話したい、という僕らにとつては劣等感の嘔んだ欲求も共通していたのだ。思い起こすと、彼はクラスでも一人でいた時が多くつた。同じよう一人を胸に抱えていた。『言葉』とは不自由な物のはずじやないのか？ 僕は絶望したものではないのか？

人と人が知り合う時、相手との共通項を探し、見つけたらそれを『言葉』に落とし込む。それを起点に相手と親密になって行く。僕らにとつての共通項はマイケルだろうか。だがそこから僕が話し下手を忘れて会話を出来たのは、もっと深い根源的な理由があつたからだと思う。

僕らの共通項は、『言葉を持つている』ことと、『上手く話したい』という願望だつたのではないだろうか。『言葉』を使うことではなく、持っていること 자체が僕と彼との共通項であり、そして、他人と関わりたい、上

せん」という言葉を使うのか。それは、日本人特有の考え方によるものである。日本では、競争に打ち勝つよう努力する人物よりも、争いを生まないよう努力する人間のほうが尊敬される傾向がある。円滑な人間関係を築くには、「すみません」と言うことが大切なことがある。例えば、歩道を歩いているときに目の前に人がいて通ることができなかつた場合、ただ単に「どうにください」と自らの要望を伝えるだけでは、相手は気分を損ねてしまう可能性がある。そこで、たとえ自らが過ちを犯していなくとも、「すみません」という言葉を文の始めに置くことによつて、相

思い起こすと、彼はクラスでも一人でいた時が多くつた。同じよう一人を胸に抱えていた。『言葉』とは不自由な物のはずじやないのか？ 僕は絶望したものではないのか？

存在だつたと思う。僕は上手く話せない、という理由だけで十分に親しくなれる要件を満たしていたのだ。

夏休みが終わると、オウェンは学校からいなくなつていた。父親の仕事が終わつたそうだ。あれから三年経ち、僕は今では『言葉』は不自由な物だとは思つていない。上手く話したい、それは誰しもが少なからず持つてゐる欲求である。だから『言葉』を持つことさえやめなければ、どんな人とも語りあうことができるはずである。

手の気分を損ねることなく自らの要望を伝えることが可能となる。

前段落で述べた「すみません」は、英語では「Excuse Me」と訳され、呼びかけの意味をもつ。「すみません」という言葉にはその他にふたつの意味がある。

ひとつは感謝である。例えば、落とし物を拾つてもらったときに、「お手数をおかけしてすみません。ありがとうございます」と言えばよいのだが、多くの人は、「お手数をおかけして」という言葉を省き、中には、「ありがとうございます」という言葉を省く人もいる。その結果、感謝を伝えるときに、本来謝罪をするときに使う言葉を用いることになるのである。このことについては、発音という観点からみると、興味深いことが分かる。「すみません」の「す」をはじめとするサ行の音は音が高いため、人にとつて聞きとりやすい音である。また、サ行の音は口を大きく開けないと發音が容易なため、口を大きく開ける必要がある。「ありがとうございます」よりも多用される傾向があるようだ。以上のような理由により、日本人は感謝の気持ちを伝えるときに謝罪の言葉を使うのだが、これは外国人にとって真意を理解するのに苦労を要するようである。この、言葉そのものの意味、「すみません」でいえば謝罪の意ではなく、呼びかけや感謝の意など、本来の意味とは別の意味で理解する必要がある言葉が日本語には多い。「つまりないのですが」「考えておきます」という言葉などもそうだ。そのため、外国人にとって日本語を理解するのは

難しく、また、日本人は感情を表現しない、消極的な人々であると思われてしまふ。しかし、私は、この日本語の「難しさ」を、日本語の「奥深さ」だと考えている。日本語の難しさは、相手を思いやり、円滑にコミュニケーションを図ろうとする努力ゆえに存在する素晴らしいからである。東京にオリンピックを誘致するときのスピーチで使われて話題になつた「おもてなし」も相手を思いやることから生まれるものだ。

「すみません」のもうひとつの意味

は、前段落でも軽く触れたが、謝罪である。日本人は物事を穩便に進めるためによく謝罪するが、外国では違うようである。日本人は物事を穩便に進めるためによく謝罪するが、外国では違うようである。日本では、謝罪するということは、自分の過ちを認めて償うといふ意味を含んでいる。例えば、車を運転していて後ろから追突されたときに、

●佳作●

言葉の正義

五条高等学校
二年 杉山菜々子

送信、既読。昨今、携帯電話が普及し相手の顔も思い浮かべずに簡単に人生を傷つけてしまうことができる。中高生のいじめにも携帯電話が使われることが多い。癖や気持ちを全く含まない言葉に人に殺されるのである。

六年、私は十一ヶ月に渡る長期入院を経験した。その間私は五十通以上の手紙を様々な人から頂いた。その中には顔も知らない病気の先輩からの手紙もあった。その頃私は不安に不安を積み重ねた生活を送っていたので、その多くの手紙がどれほどの精神安定剤の代わりを果たしていたのであらうか。おばさんの言葉、友達の言葉、先

する日本人の気質は直すべきだと思われるかもしれないが、私はこれを、日本人の「無責任さ」ではなく、相手との衝突を極力抑えて物事を上手く收めようとする「柔軟さ」だと考える。これらのように、日本語の、特に「すみません」という言葉には様々な意味があり、この言葉ひとつで様々な場面に対応できる汎用性をもつている。場面によって意味していることがまったく変わってしまう様は、まるで魔法の言葉と言えるだろう。事実、この「魔法の言葉」ひとつを使えるだけで、街中を歩くことが可能である。しかし、

グローバル化が進んでいる現在、今までと同じような感覚でこの言葉を使えばすべての物事がスムーズに運ばれるとは限らない。私たちは外国人と接する機会をより多くもつことになり、それによって、相手に分かりやすく自分の感情を伝える必要が生じてくるだろう。

この「魔法の言葉」は日本語の素晴らしい産物である。これを生かしながら、その場面で適切な表現方法で言い換えると、これからのグローバル社会にも堪えうるコミュニケーション能力を身につけていくこうと思う。

その一方でテレビをつけると飛び込んだり亡くなつていった中学生・高校生のニュース。現代で問題となつてているのは携帯電話でのいじめである。言い換えると言葉を使つた殺人。相手の顔が見えないという、加害者側からすると好都合な条件付きで、「ことば」は言葉の他に「詞」という漢字を当てることができる。歌詞は詞を使う熟語のひとつである。歌詞はその曲がより聴く人に分かりやすくするものだ。日本は平安時代から和歌といふものを創作してきた。自分の心を穏やかにするために、また相手を説くために。目の前の季節、彼女への深い恋心、何かへの歯がゆさ、そういうもののために自分が持つてゐる知識と

最大限の工夫を五七五七の言葉、いや詞の中に結集させる。そして千年前も後の私たちの心に深く広く染みこんでいく。言葉とは昔も今も時代を越え、時の皇族も女子高生も役職や位の関係なく人を感じさせる力を持つ。言葉が与える影響は凄まじいものである。携帯電話でのいじめと平安時代の和歌で使われる言葉の中身は、相容れないようでは実はそうではないと思う。それはただ単純に、人に嫌われる言葉と好まれる言葉というだけではないといふことだ。前者は冒頭でも記したように、癖や気持ちを含まない明朝体で並べた言葉を使って送信を押せば、相手の心をえぐることができる。そして、相手が既読をつければ任務完了。こんなことに、先人が積み上げてきた言葉を使つて良いのだろうか。答えはノーダ。というように言葉を使う前提が間違つているような気がしてならない。

先人たちは生活必需品として、より便利にまたより楽しくするために言葉を作つてきた。だから人を傷つけるという行為そのものが間違いな気がする。

古典の先生が以前授業で、言葉は言葉であるとおっしゃった。そのときはただ漢字の成り立ちとしておっしゃつただけであろうが、私はこの言の葉が、ことばに当てはめられて本当に良かつたと思う。なぜならこの熟語、とても幻想的で美しいからだ。人が口にした瞬間、ひらひらと舞うように、まるで葉のように相手の耳に届く。また、押し花のように本の頁と頁の間でじつと開かれるのを待つていて。まるで紅葉や若葉のように、丸みを帯びたり

優しかつたりする人それぞれの個性が手紙の上に綴られていく。言葉が無くては、私たちは生き方に制限がかかる。もし言葉がないとしたら、どのように私たちは生きていくのだろうか。まず、名前をつけることができない。もちろん私たちの名前も無いことになる。ひとりひとりに与えられた親からの願いを、私たちは持たないことになる。とても寂しくて悲しい。また、このように自分の考えや気持ちを誰かに伝えることができなくなる。人々は、目の前に咲いた花の感動を、隣にいる人に伝えられない。美や樂を共有することができなくなるのである。この上なくつまらない。言葉とは何気なく存在しているようで、それほど私たちにとって重要なことは、何としても避けなければならないことだ。

ニュースとしてやり玉にあげられるのは、どちらかといえば負のものが多々、その中には言葉による暴力で自分が自分を見失つた人がいる。無限にある言葉の中で、もう少し違う言い回しで伝えられなかつたのか。言葉が秘める美しさや幻想性をどうしたら相手にうまく伝えることができるかという疑問はひどく難しい。

例えば、私は言葉につまることはよくある。それは、今自分が考えている言葉よりも、もっとカチツと当てはまる言葉があるはずだと思うからだ。そんなとき、もっと語彙力を増やしたい、もっと自分の思つていることをストレートに伝えたいという意欲がでてくる。

●佳作●

「言葉」について

五条高等学校
一年 小原 一馬

この瞬間が私は好きだ。ここに綴つてきた言葉も、頭の中に生まれる考え方をして、私たちは生き方に制限がかかる。どうしたら上手に紙の上に載せ、読んでいる人に伝えられるか。

私が生きてきた十七年の知識と経験を、最大限に引き出している。もうあと何年したらこの知識と経験が膨らんで、美しくて幻想性のある言葉を、なんのためらいもなく使えるときが来るだろうか。

言葉を使うとき、それが美しい使い方をされているか、武器と化すのか、私たちは一呼吸おいて考えなければならぬ。だれでも自然にそんなことができる世の中が来たら、どんなによいだろうか。

言葉を使うとき、それが美しい使い方をされているか、武器と化すのか、私たちは一呼吸おいて考えなければならぬ。だれでも自然にそんなことができる世の中が来たら、どんなによいだろうか。

「言葉」とは何か」という問いに対しても私はこう答える。「言葉とは、料理を使う素材の一つ一つである」と。

もう少し分かりやすく掘り下げてみると、今あなたの目の前には多種多様の言葉という名の素材がある。そして使ってくれと言わんばかりの調理器具や調味料、お皿の数々がある。あなたは持ち合わせている料理の腕を最大限に發揮し、お皿に盛り付け、料理を渡したい相手にできあがつた料理を提供するこの料理こそが「言葉」であると私は考へる。

素材の一つ一つは簡素な味でしかない。だが一旦言葉の組み合わせ、配列など「表現力」を加えれば、たちまち素材以上の美味しい「言葉」をつくり出すことができる。だから言葉の知識がなければ扱える素材も自ずと少なくなるし、表現力が乏しければできる調

覚えた。

「言葉」

「言葉」は昔から人類に広く浸透していた。だからその分、「言葉」とは何たるかについて、疑問を持ち、考える時間を持つ。そこで、その当時、そして未来の読み手達に納得させようと多くの著者を残してきた。私も元々人生のように「常に傍らにいながらも、言葉で表せないもの」を追求したいと思つており、そして外国人との会話においてその気持ちが一層深まり、なおかつ先人達と同じく受け入れてほしいという下心を含みつつ、自分の思いを述べようと思う。

单刀直入に「言葉とは何か」という問題に対する私はこう答える。「言葉とは、料理を使う素材の一つ一つである」と。

もう少し分かりやすく掘り下げてみると、今あなたの目の前には多種多様の言葉という名の素材がある。そして使ってくれと言わんばかりの調理器具や調味料、お皿の数々がある。あなたは持ち合わせている料理の腕を最大限に発揮し、お皿に盛り付け、料理を渡したい相手にできあがつた料理を提供するこの料理こそが「言葉」であると私は考へる。

素材の一つ一つは簡素な味でしかない。だが一旦言葉の組み合わせ、配列など「表現力」を加えれば、たちまち素材以上の美味しい「言葉」をつくり出すことができる。だから言葉の知識がなければ扱える素材も自ずと少なくなるし、表現力が乏しければできる調

理法も狭められてしまう。また調味料一つにおいても様々なことがいえる。相手を惑わせたいならば媚薬を入れて「甘い言葉」に、相手を傷つけたいならば鋭利なものを混入して「トゲのある言葉」に、相手を感情的に殺したいならば毒薬を盛つて「毒舌」に、相手に何もしたくなれば何も入れないで「無味乾燥な言葉」というふうに、相手に対する思い一つで味が目まぐるしく変わるのだ。

さらに料理を食べる人によつても、その味は多種多様なものとなる。相手からもらった「言葉」を好意的に感じれば「美味しいモノ」であり、逆に感じれば「不味いモノ」となる。これは当たり前のことだが、料理をする人が一番気を付けなければならない点である。

たとえ自分自身は「美味しいモノ」をつくったと思っていたとしても、受け取った相手が「不味いモノ」として感じていたということは往々にしてある。素材が少ない、嫌いな素材がある、適切な調味料でない等々。相手のことなど我関せず、自分の作りたい料理を作る、という人なら別だが、結局は食べててくれる人がいなければ料理は料理でなくなる。だから料理を作る人は、相手の特性や好みなどをじっくりと見極め、異物が入り込んでいないか吟味し、細心の注意を払つて、食べてほしい人に「召し上がるがつていただく」ようにしなければならない。だから好きな

人に本気で告白するとき、その「言葉」は重みがあるし、指導者のスピーチは人の心を揺さぶるのだろう。ビートルズやイソップ寓話などが不動の人気を保っているのは、人間のほとんどが美味しいと感じる「味覚」を刺激してやまないからではないかと私は思つてい

しかし、相手の心に響く最高の「言葉」を作ることはほぼ不可能である。

人の心を理解する術は、人間が誕生してからおよそ七百万年後の現在でも発見されていない。ほどよく美味しい料理を作れるなら、生きるためにそれ以上の料理スキルは必要とされず、最高の料理は「できたらいいな」程度のことだ。

それでも私は最高の料理を作ることは「言葉」を使う人間にとつてなくてはならない欲求だと思う。テストでも、記述問題で模範回答などの答えを叩き出すことは難しい。採点者である相手が頻繁に変わるので同時に、言葉にしなければ自分の意見が伝わらないので、言葉は大切である。そして、言葉を伝えるとは、人とコミュニケーションをとる手段であるが、ここ近年は携帯電話の普及の影響で自らの思いなどをよくメールなどで伝えがちである。

しかし、文面上であると誤解が生まれるケースも少なくはない。なぜなら、思つてもいらないのに文字が原因でその言葉が相手からしたら、きつい言葉だととらえられてしまう場合もあるからである。実際、携帯電話を利用した意見の伝え方はとても便利ではあるが、自分が思つている言葉が伝わりにくい。そして、そのことがいじめなどの最悪なケースにまで陥つてしまふことも多々ある。よくニュースなどでも、L I N

材、調理法、味付けをしてできた料理が「言葉」であり、最高の「言葉」を作るために努力することこそ、言葉を作らう我々にとって最も重要なことだと私は考える。

相手のことを想いながら、適切な素材、調理法、味付けをしてできた料理の伝え方には、もう一つ問題点がある。それは、言葉の省略だ。若者の多くはなるべく言葉を簡潔にまとめて効率的に言葉を伝えようと、言葉を省略して、ちにくい。

そして、携帯電話を利用しての言葉の伝え方には、もう一つ問題点がある。それは、言葉の省略だ。若者は、言葉を簡潔にまとめて効率的に言葉を伝えようと、言葉を省略して、使いつがちである。例えば、「ヤバイ」、この文字を見ると焦つてしたり、追い込まれてたりしている様子を表しているのかと思われるが、その意味だけではなく、「ヤバイ」、この一単語にかわいいやおいしいなど、たくさん意味も含まれている。「ヤバイ」とは良い意味でも悪い意味でも両方で使用することができますが、そのため、近年の若者は自分の気持ちを省略した言葉を使用せず、きちんとした言葉で相手に伝える、という行為ができないのであります。つまり、言葉の伝え方一つで色々な問題が発生してしまうことがある。そして、言葉というものは、癖と同じようなも

Eでの問題がたびたび報道されている。それらはもとをただせば、言葉が原因の可能性もある。また、歌で考えてみると、歌は歌詞という言葉でメッセージを伝えるものだが、歌詞をただ単に眺めて意味を読みとると、実際に歌手が気持ちを込めてメロディに沿って歌うこと、意味を読み取ると、文字で見て言葉を理解するメールなどを利用しての伝える言葉は本当の意味を伝えるコミュニケーションとして成り立つ。

●佳作● 言葉の在り方

清林館高等学校
一年 加藤 三奈

だからそれを作るために、多くの知識・表現力を培うことが必要とされる。多くの時間と根気をもつてして初めて完璧な「言葉」を作り出し、「言葉」の新たな世界を開くことができる。

ので直そうと思つてもなかなか難しい

のが現状であるため、解決策としては、

幼少期から学校などで、根本的な言葉

の使い方を教えること、自分の気持ち

を忠実に表すことなどが大切になつて

くる。学校で教えるということに対し

ては、特に力を入れるべき点だ。自分

で考えて文章を書くという行為を増やす

など、身近にありがちできちんとで

きていないことをしつかりと見直す必

要がある。また、周りの大人もそれを

十分に理解して、これを機に一緒に取

り組んでいくことも重要である。事実、

言葉遣いの問題は若者の問題と決めら

れがちだが、大人全員がきちんと話せ

ているかと言われば、そうではない

こともある。そして、近年、様々な企

業で最近の若者は根性がなく、すぐに

会社を辞めてしまうといわれている。

また、離職率も高い。これらをふまえ

て、提案した策を実行することによつ

て、向上心を高めるとともに、根気強

い人財の育成も可能であり、言葉の本

来の意を十分に理解できる。また、こ

のように言葉と向き合う機会を増やす

ことは日本全体に良い影響を与えるに

違ひない。そして、海外にも対応でき

る能力を身につけることが可能となる

であろう。

しかし、時には相手を傷つけてしま

うことにもなりうるため、自分が相手

と目と目で会話をしない場合、つまり

メールなど、文字で気持ちを伝える場

合には、言葉を慎重に選択し、相手に

嫌な思いをさせないよう努力すること

が必要不可欠である。

近年では、特にメールなどを通して

発生する様々な問題を避けるために、

スマートフォン教室が学校などで、か

なりの頻度で開かれている。つまり、

このことは社会全体から見てもかなり

大きな問題となつてくる。ここで必要

となつてくるのは、相手の気持ちにな

つて考えてみることだ。当たり前のよ

うに思えるが、一番大切なことであり、

なおかつ、気に掛けなければならない

ことでもある。そして、これらのこと

について一人ひとり考えなければなら

ない。

このように、言葉一つでいろんな視

点につながってゆくこととなり、言葉

の伝え方から、言葉遣い、そして現在

の社会にまで目を向けることとなつた。

つまり、たかが言葉と思われるがちにな

った視点で見られるようになる。この

サイクルを一人ひとりが理解し、言葉

と誠実に向き合い、利用していくばこ

の世の中は少し変わっていくであらう。

また、言葉を見直すことによって、以

上のように、効果がみられる可能性が

あるということ、そして、言葉には様

々な力が秘められているということを、

理解していくけば、十分に言葉の本来の

力を發揮し、社会を一つにする。つま

り、言葉の力というものは計り知れな

り方』が大きく関わってくる。

この作品の力の源泉は、筆者の内面

がごく素直に語られていることにあ

審査委員会

一総評および選評

第六回を迎えた今回のテーマは「言葉」である。地域社会の九校から五三八点の応募作品が寄せられた。前回に

比して八〇点近い減少とはい、稻葉

真弓賞が地域社会の高等学校において

年中行事として受け入れられつつある

ことを物語る数字であろう。

さて、稻葉真弓賞は私どもの大先輩

である小説家の名を冠してはいるが、

懸賞論文である。まず、抽象的なテー

マをもとに、どのように単純明快な問

題を提起するか。次に、自らの考える

結論をどのようにして有効な具体例で

裏付け、説得力を持たせるか。そして

最後まで破綻なく論理の一貫性を貫け

るかどうか。これらの点が小論文の生

命線である。ただしこれは一般論であ

る。更に上を行くためには、独創的な

視点が欠かせない。残念ながら、前年

に比べ独創性という点では後退したか

かもしれない。具体例もSNSに偏つて

いた。しかし、地域の高校生の教養の

レベルを引き上げようという挑戦に、

時として失敗はつきものだ。この賞を

狙つてさらなる力作が寄せられること

を、切に念願している。

ありふれた一般論は力を持たない。その人だけの持つ個性的な思考の遍歴や体験がテーマと一致した場合、説得力が生まれる。他者との関わりは言葉による交流への意欲から始まるという結論に、自然に導かれるようだつた。

◎優秀賞 水野 裕貴

『魔法の言葉』

目を引く派手さはないが、じっくり

と対象と向き合う姿勢が高評価を得た。

これだけ特定の言葉を掘り下げた作品

は他に例がなかつた。グローバル化と

は大きなうねりに自己を合わせること

だと思われがちだが、実はローカリテ

ィのやりとりなのだという点に、筆者

の未来志向が表れている。

◎佳作 杉山菜々子

『言葉の正義』

SNSの負の側面に言及した作品は

多かつたが、自己のリテラシー能力の

向上を目標に据えた点が目を引いた。

しかし、地域の高校生の教養の

レベルを引き上げようという挑戦に、

時として失敗はつきものだ。この賞を

狙つてさらなる力作が寄せられること

を、切に念願している。

◎佳作 小原 一馬

『「言葉」について』

やや月並みな結論ながら、言葉の隠

喻としての料理を一貫して語つた点が、

独創的かつ意欲的だつた。

◎佳作 加藤 三奈

『言葉の在り方』

一般論の域を越えることはできなかつたが、社会との関わりの中で言葉を論じようとする姿勢が評価できる。